家庭教育力の強化を図る

楽しく、無理なく、ためになるＰＴＡ活動を目指して

阿久比町立阿久比中学校ＰＴＡ

１　はじめに

【阿久比町立阿久比中学校校舎】

阿久比中学校は、創立７８年目を迎える、阿久比町にたった１つの中学校である。宅地造成の影響で近年生徒数が増え続けており、全校生徒数 1070 人、３５学級（うち特別支援学級７学級）のマンモス校である。「自主・勤労愛好・時間尊重」の校訓のもと、「制服選択制」や「ノーチャイム制」などの取組を通して生徒の自主性を伸ばすとともに、学校内外でのボランティア活動への積極的な参加を通して勤労愛好の精神を育て、生徒の自己有用感や地域の一員としての意識を高めることを目指している。

２　研究への取組

（１）　ＰＴＡ組織の改革

令和４年度までは自治区ごとの割り当て人数に応じて役員・理事を選出していた。ところが、生徒数の増加に伴い理事の人数も増え、組織が大きすぎて機能しづらくなった。また、コロナの影響で数年間行えなかった活動は引き継ぎが難しくなっていた。さらに、役員・理事を引き受けるうえで年間８回の会議が負担という保護者もいることが分かった。

これらを踏まえ、令和５年度からは会長はじめ役員７人は、これまで通りに割り当て地区から選出するが、全地区から選出していた理事については委員と名前を改め、人数の枠を設けない立候補制とした。

さらに、６つあった委員会を廃止し、年度ごとに活動内容を集まった役員・委員で話し合って企画・運営していくこととした。これまで委員会の活動としていた町や外部組織からの動員要請や、学校が保護者の手を借りたい行事などについては、「ちょこっとボランティア（通称：ちょこボラ）」を募集して対応することにした。

（２）　研究のねらい

上記の改革によりコンパクトになった組織で、「例年通り」の活動から脱却し、生徒のため、学校のため、保護者の交流のためになることを毎年考え、タイムリーに活動していくことを目指している。学校の連絡通信アプリのアンケート機能を活用し、広く保護者の声を集めながら企画・運営していく。特に、「親子で話題にしたいこと」や「子どもに身に付けさせたいけれど、家庭の力だけではうまくいかないこと」

に目を付け、ＰＴＡ活動として家庭教育の充実に取り組んでいく。

３　実践活動の概要

（１）　不登校支援の取組

不登校生徒同士、また、その保護者同士の交流の場を作りたいという思いから、保護者目線の不登校支援に取り組んだ。

【イラスト教室の様子】

不登校の経験のある漫画家の棚園正一氏を講師として、令和５年６月と１２月に講演会とイラスト教室を開催した。阿久比町小中学校ＰＴＡ連絡協議会との共同開催で、不登校かどうかに関わらず小中学生とその保護者、教員が参加できるようにしたところ、５０名を超える参加があった。

前半の講演会では、棚園氏が不登校だった頃の気持ちや保護者の様子、漫画家を志すきっかけなどのお話を伺った。後半のイラスト教室では、人間の顔や体のイラストをバランスよく描く方法を教えていただいた。Ｇペンやスクリーントーンなど本物のイラスト制作に使う道具を使って、棚園氏のアドバイスを受けながらイラスト制作を親子で楽しむことができた。

また、別室に保護者が自由に語り合えるサロンも準備した。不登校の子をもつ保護者同士で共通の悩みについて語り合いながら、ほっと一息つくことのできる場となった。

（２）　進路学習会「先輩の話を聞く会」

「進路」は中学生やその保護者にとって代表的な悩みである。そこで、卒業生から直接話を聞くことのできる「先輩の話を聞く会」を開き、学校説明会では得られない情報を得る機会を設けることにした。

生徒への事前アンケートをもとに興味のある高校を絞りこみ、進路指導や教務主任の先生を通じて、本校を卒業したばかりの高校１年生計１６名を講師として招き、夏休みに会を開いた。当日は約 100 名の中学生が参加して、先輩から授業の様子や校則、部活動などの高校生活の話や受験生だった頃のエピソードを聞いたり、疑問に思っていることを質問したりしていた。参加した生徒からは、「行きたい高校が見つかった」「オススメ勉強法の話が役に立った。自分なりの勉強法を見つけたい」という声が聞かれ、好評だった。保護者も自由に参観できるようにしたところ、多くの保護者が生徒と一緒に高校生の話に耳を傾けていた。親子で進路の話をするきっかけづくりになった。

【先輩の話を聞く会】

（３）　性教育セミナー

ＰＴＡ活動に関するアンケートに寄せられた「学校では教えてくれない性教育の話を聞きたい」「性教育について家庭でどう話せばよいか分からない」という保護者の声を受け、子どもたちに正しい性の知識を身に付けてほしい、自他の心や体を大切にする気持ちを育ててほしいという思いから、藤田保健大学名誉教授の久納智子氏を講師として招き、生徒向けの性教育セミナーを行うことにした。

講師の先生には、保護者向けの事前アンケートに出された「ＳＮＳなどからの誤った性の知識の影響が心配」などの意見を踏まえて講演をしていただくようにした。また、生徒たちの参加は希望制として、すべての学年から参加希望をとったところ、当日は２０名の生徒が参加した。

「中学生のお付き合いとして、どこまでならＯＫか」という話題では、「一緒に帰るくらいなら…」「体に触るのはダメじゃない？」など、互いに意見を出し合いながら、人それぞれ許せるラインが違うということに気付くことができた。また、講師の先生からは、正しい情報を知ることのできるサイトを紹介していただいた。

事前アンケートで寄せられた保護者からの質問を講師の先生に答えていただいた内容と、生徒の事後アンケートのまとめについては、全世帯に配付し、内容を還元することができた。

【性教育セミナーの様子】

（４）　その他の取組

①　ＰＴＡバザー

改革前から取り組んできたバザーにおいても、新しい試みを取り入れた。制服や日用品のリサイクルに加え、地域のハンドメイド作家の方々を招いてアクセサリーや袋物などの手作り品を販売するマルシェも同時開催する形にした。マルシェには１０店舗ほどの応募があり、開店前から行列ができるほどの大盛況であった。

収益金については、令和５年度は「学校の安全・安心のために」という保護者の思いから、防犯カメラを学校に寄付し、昇降口に設置した。令和６年度は収益金を防災に役立てることにしている。生徒向けの防災教室を開き、その中で炊き出し体験を行ったり、生徒が学校にいる間に被災したときに役立てる備蓄食糧を購入したりすることを検討中である。

②　ペアレントセミナー（バス研修）

ペアレントセミナーとして、体験活動や施設見学を通して保護者同士の親睦を深めるためにバス研修を行っている。令和５年度は抹

茶工場を見学し、ミカン狩りを行った。令和６年度はそば打ち体験と八丁味噌工場の見学を予定している。

参加した保護者からは、「学年や地区の違う保護者と知り合いになることができてよかった」「上の学年の保護者の方とお話しして、いろいろと教えていただくことができた」という声が聞かれ、新たなつながりが生まれ、充実した研修となった。

③　「ちょこボラ」の活動

「ちょこボラ」の活動にも、多くの保護者に参加していただいている。町のあいさつ運動や街頭指導のボランティアだけでなく、バザーや進路学習会、除草作業などのＰＴＡ主催行事の手伝い、さらには卒業式・入学式の駐車場整理など、多くの場面で協力していただいた。体育祭の玉入れの玉を修理するボランティアを募集したところ、「作業当日は参加できないが、持ち帰りならできます」と申し出があり、学校のために協力したいという思いが伝わった。

【玉入れの玉修理ボランティア】

４　おわりに

組織の見直しを行い、従来の活動を一回リセットすることによって、新たなＰＴＡ活動の在り方について考えることができた。

まず、役員・委員の意見だけでなく、保護者全体からのアンケート結果をもとに「例年通り」に捉われない活動を自由に企画できるようになった。そのことで、役員・委員が「どうせやるなら、楽しくやろう！」という前向きな気持ちで活動に参加できるようになったと感じる。「ちょこボラ」も含め、ＰＴＡ行事に参加してくださる保護者の方々からも「楽しかったのでまた参加します」という声が聞かれ、企画する側としてもうれしく感じている。

また、全員集まって行う会議の回数を年８回から６回に減らすことができた。それぞれのイベントについては、必要な人・集まれる人だけで必要な時に連絡を取り合って集まったり、メール等でやりとりをしたりして作業を進られることが分かってきた。

さらに、保護者としての思いを大切にした活動を実施できるようになった。生徒のため、学校のため、保護者のために必要なことは何か、その年ごとに考えて企画することで、より有意義な活動にすることができた。

令和８年度からは役員も立候補制にする予定である。本当に役員・委員が集まるか不安だが、現在の「楽しく、無理なく、ためになる」活動を模索し続けていくことで、保護者の意識が徐々に変わり、より協力的な体制づくりが進むのではないかとも考える。今後も持続可能なＰＴＡ活動を目指して取り組んでいきたい。